

(別紙 10)

茨城県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る評価報告  
(出没防止対策事業)

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

平成 18 年度に大子町でクマの幼獣の轢死体が発見されているほか、平成 28 年度に常陸太田市で養蜂箱が破壊される被害があった。その後、写真や痕跡等で確認できた事例はないが、クマらしきものの目撃情報はある。

また、本県はクマ類の恒常的生息域ではないとされてきたが、平成 30 年度中大型哺乳類分布調査で分布情報が得られている。

こうしたことを踏まえ、令和 7 年度から新たに、人的被害の発生防止を図るため、生息域拡大前の普及啓発や注意喚起に取り組むものである。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和 8 年 2 月 20 日
場所	茨城県県北地域を中心とする。
目的・目標	クマの生態等について、普及啓発や注意喚起を実施し、人的被害の発生防止を図る。
内容	市町村をはじめとする関係機関の職員や地域住民、捕獲従事者に対してクマの生態や行動、生息しにくい環境づくり、出没時の注意等について普及啓発を図る。 また、令和 7 年 6 月に茨城県大子町内でクマの目撃があったことを踏まえ、県北 6 市町では必要に応じパトロールを実施しているところであるが、その際の備品として緊急時に使用できるためのクマスプレーを購入することで、パトロール時の安全性確保を図る。
方法	講習会の開催、クマスプレーの購入
評価方法	講習会出席者へのアンケートによる
事業費	1,696,800 円
備考	

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注 2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

### 3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

講習会の開催及びクマスプレーの購入について、計画どおり実施することができた。講習会については、捕獲従事者や市町村職員等、計 82 名が参加した。

アンケートの結果からは、講習会のわかりやすさを 5 段階中 3 以上と回答した参加者は 90% 以上だった。また、ドラム缶檻や轟音玉、クマスプレー等の資材の紹介については、体験型講習だったこともあり、わかりやすさや満足度で高い評価が得られた。

実技や体験型講習の充実を求める意見が多くあったので、次年度以降は現場対応力の向上が図れるような、講習内容の検討を進めていく。

注 1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注 2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注 3：注 1 による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

### 4 その他

特になし

注 1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。